

# 第100期 株主通信

2014年4月1日 — 2015年3月31日

# Nagase Report

## 目次

株主の皆様へ .....	1
目で見える連結決算ハイライト .....	3
目で見える連結財務諸表 .....	5
トピックス .....	7
会社情報／株式情報 .....	9

# NAGASE

長瀬産業株式会社

証券コード：8012



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第100期(2015年3月期)株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶させていただきます。

当期の日本経済は、円安による企業収益の改善等により、緩やかな回復基調で推移しました。また、世界経済は、欧米では回復傾向にあったものの、成長に陰りのある中国をはじめ新興諸国の経済成長に鈍化がみられました。

そうした中で当社グループの営業状況は、アジアを中心とする海外市場の好調等により、売上高、営業利益、経常利益とも増加を果たしました。詳細のご報告と今後の展開につきましては、以下のインタビューにてご説明申し上げます。

2015年6月

代表取締役社長 朝倉 研二

## 『人々が安心・安全で快適に暮らせる社会』の実現に貢献し、企業価値を高め、さらなる成長を目指します。

**Q** この4月に社長に就任されました。就任の抱負をお聞かせください。

**A** 新しいNAGASEグループの確立に向け、経営理念「誠実に正道を歩む」のもと、ナガセは変革の一步を刻みます。

この度、「グループ経営体制の強化・充実による、さらなる企業価値の向上」を目的に、社長職という重責を担うこととなった朝倉研二です。私の使命は、当社不変の経営理念「誠実に正道を歩む」のもと、創業200年にあたる2032年に向けて新しいNAGASEグループを確立することです。その飛躍に向け、「全員参加」「現場」を第一義に、変革の一步を刻むべく、精進してまいる所存です。

**Q** 当期の営業活動による成果を総括願います。

**A** 売上高、営業利益、経常利益とも大きく伸長しました。

連結業績は、売上高、営業利益および経常利益がプラスとなりました。国内売上高は前期比0.3%増の微増にとどまりましたが、海外売上高は前期比10.1%増と伸長し、売上高に占める海外比率が50.7%と、過半数を占めることとなりました。利益面につきましては、自動車関連事業およびOA・家電用途関連事業等の売上が増加した結果、売上総利益が前期比3.4%増加したことと、退職給付費用の減少等により営業利益が前期比15.0%増、経常利益が前期比13.7%増となりまし

た。一方、当期純利益は、投資有価証券売却益の減少や、税制改正に伴う繰延税金資産の取崩し等により3.0%減となりました。

**Q** 次期(2016年3月期)の見通しはいかがですか。

**A** 世界経済全体の緩やかな回復基調を背景に、増収増益を維持します。

次期の当社グループを取り巻く環境は、中国の経済成長の鈍化、欧州債務問題、中東等の地政学的リスクなど不透明要素はあるものの、国内経済を含め世界経済全体としては、緩やかな回復が維持されると見込まれることから、OA・家電用途向け樹脂関連事業やスマホ・タブレット関連ビジネスが好調に推移するものと見込んでいます。連結業績は、売上高8,230億円(当期比8.3%増)、営業利益195億円(同7.4%増)、経常利益206億円(同1.1%増)、当期純利益121億円(同6.9%増)を予想しています。

**Q** 中期経営計画「Change-S2014」の総括と今後の展望をお聞かせください。

**A** 『Change-S2014』は一定の成果はありましたがまだ道半ばです。まずは創業200周年を見据えた長期経営方針から策定します。

当期で終了した中期経営計画『Change-S2014』は、「“CHANGE”の加速」という変革意識のさらなる浸透、グループの融合や組織を越えた協業の進行、運営基盤の質的な向上等、一定の成果はありましたが、変革はまだ道半ばと

認識しています。今後につきましては、過去の中期経営計画における反省を踏まえ、まず、長期経営方針を策定し、その方針に沿った中期経営計画を策定することといたしました。新中期経営計画は、2016年度から始まる5か年計画とし、本年度はその策定に注力することといたします。

従いまして、2015年度は、単年度計画といたしますが、当然ながら数字にはこだわり、業績向上を目指してまいります。

**Q** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A** 「誠実に正道を歩む」という経営理念のもと、グループ一丸となって取り組んでまいります。

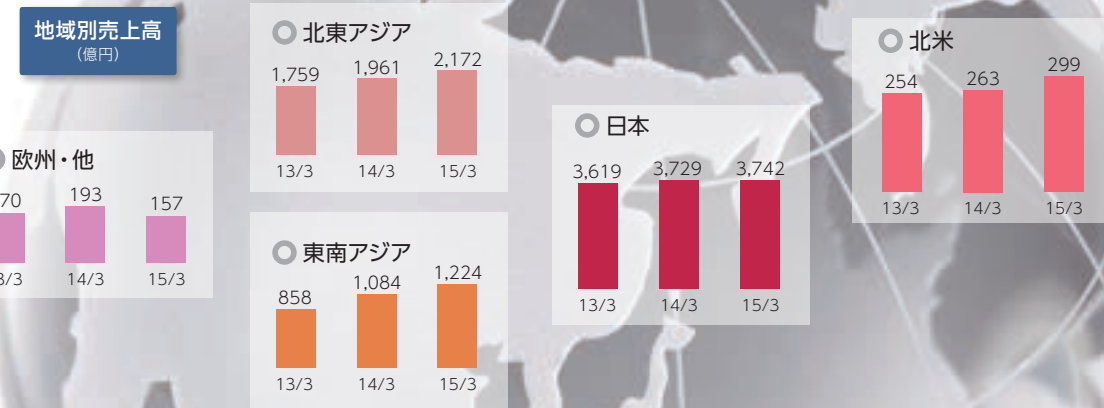
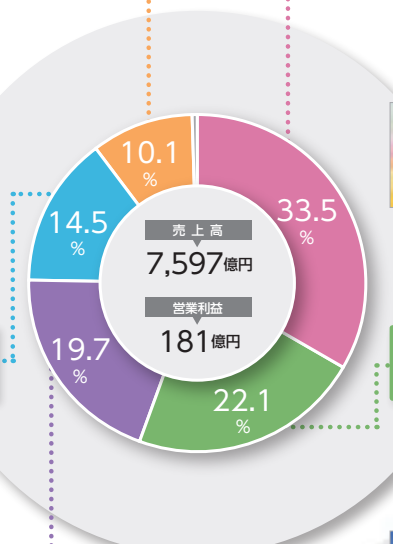
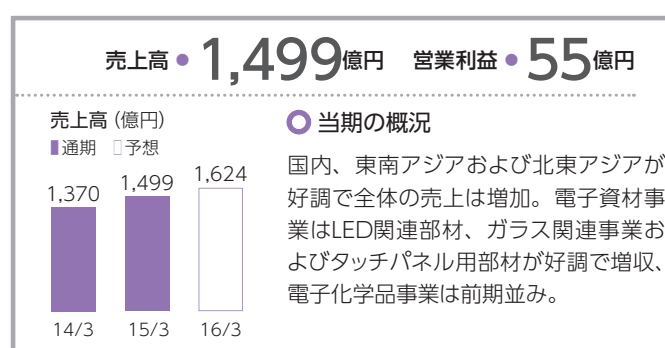
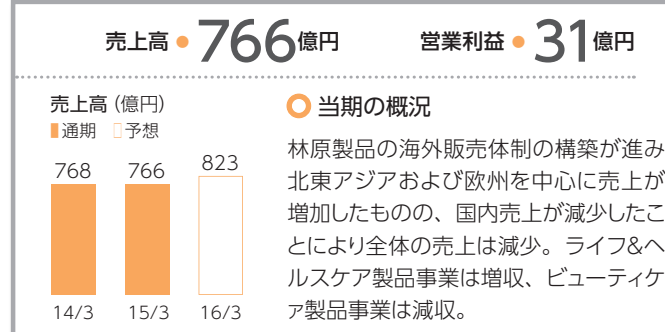
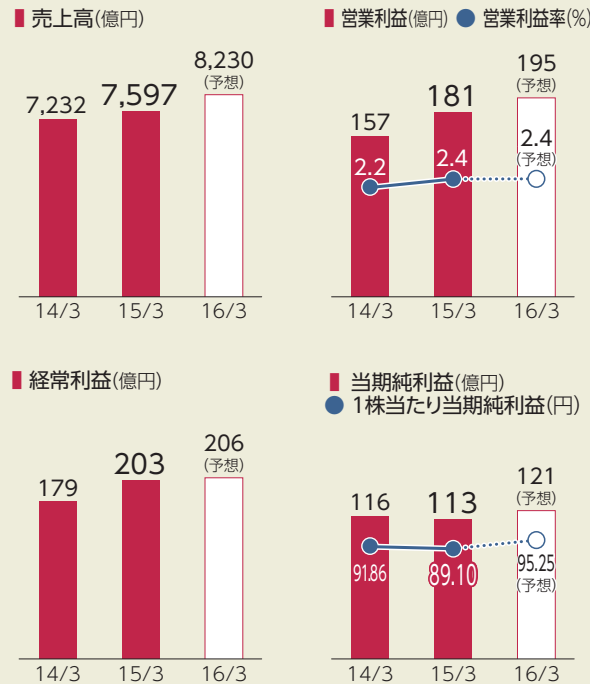
当期の期末配当は、予定通り1株当たり15円とさせていただきました。その結果、中間配当を含めた年間配当金は同30円(前期比2円増配)、連結配当性向は33.7%となりました。次期配当も年間2円増配による同32円を予定し、6期連続増配を果たす考えです。引き続き一層の業績向上を図り、株主の皆様への利益還元を充実させてまいります。

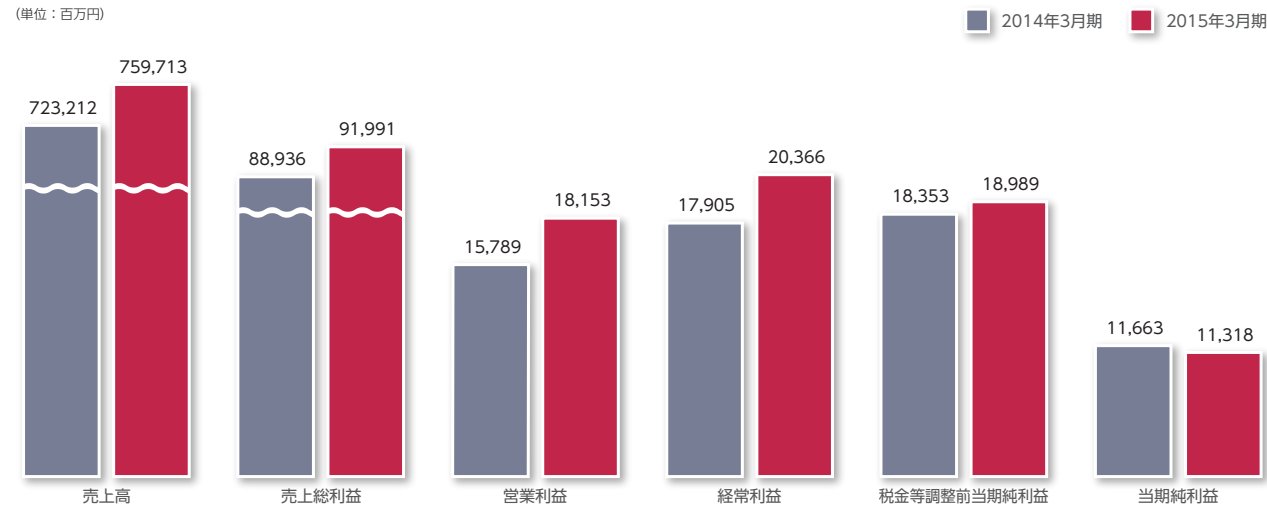
株主に皆様におかれましては、当グループの将来性にご期待いただき、今後とも長きにわたりご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Checkpoint

- 売上高：自動車関連およびOA・家電用途関連事業等の売上増加により増収
- 営業利益：売上総利益の増加や退職給付費用の減少等により増益
- 当期純利益：税制改正に伴う繰延税金資産の取崩し等により微減

連結決算ハイライト





損益の状況

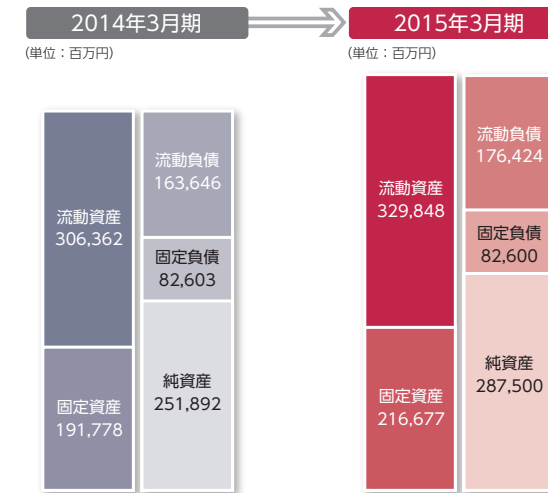
解説

当期の売上状況は、国内販売が3,742億円(前期比+0.3%)、海外販売は3,855億円(同+10.1%)となり、売上高は7,597億1千万円(同+5.0%)と増収になりました。

利益面につきましては、自動車関連事業およびOA・家電用途関連事業等の売上が増加した結果、売上総利益は919億9千万円(同+3.4%)となりました。営業利益は、台湾子会社において一部取引先に対する貸倒引当金を計上したものの、売上総利益の増加や退職給付費用の減少等により181

億5千万円(同+15.0%)となり、経常利益は203億6千万円(同+13.7%)となりました。

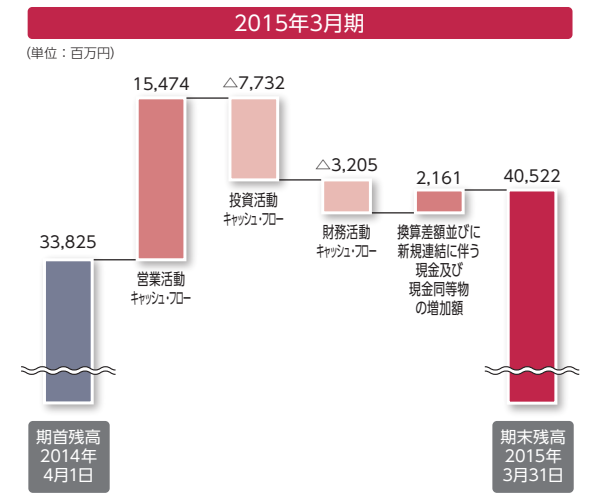
一方、当期純利益は、投資有価証券売却益の減少や平成27年度税制改正に伴う繰延税金資産の取崩し等により113億1千万円(同△3.0%)となりました。



資産・負債・資本の状況

解説

総資産は売掛金や棚卸資産および投資有価証券の増加等により、前期末に比べ483億8千万円増加の5,465億2千万円となりました。負債は借入金やその他有価証券評価差額金に係る繰延税金負債の増加等により、前期末に比べ127億7千万円増加の2,590億2千万円となりました。純資産はその他有価証券評価差額金の増加等により、前期末に比べ356億円増加の2,875億円となりました。自己資本比率は前期末の49.5%から2.0ポイント増加し、51.5%となりました。



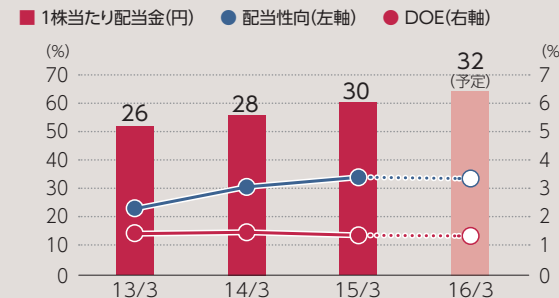
キャッシュ・フローの状況

解説

当期末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動による資金の収入154億7千万円、投資活動による資金の支出77億3千万円、財務活動による資金の支出32億円、換算差額による資金の増加21億2千万円に新規連結に伴う資金の増加3千万円を加味した結果、前期末と比べ66億9千万円(+19.8%)増加し、405億2千万円となりました。

利益分配に関する基本方針

当社は、収益力の向上と企業体質の一層の充実強化を図り、連結業績連動を基礎とした、株主の皆様への安定配当を継続して行うことを基本方針としており、当期の期末配当金は前期に比べ1円の増配を実施し、1株当たり15円(年間ベースでは2円増配の30円)とさせていただきます。また、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当金32円(中間配当金16円、期末配当金16円)とし、年間2円の増配を予定しております。



ホームページのご案内



当社では多くのステークホルダーの方々に当社の事業内容や強みなどがご理解いただけるようホームページの充実を図っています。コミュニケーションツールのひとつとして、ぜひ、ご活用ください。

URL → <http://www.nagase.co.jp/>

長瀬産業 検索

- ニュースリリース……適時開示情報や新製品情報等に関する情報をタイムリーに掲載しています。
- 企業情報……基本理念、トップメッセージのほか、組織図、役員等に関する情報を掲載しています。
- 事業内容……事業部門、研究開発部門ごとの役割と取り組み等に関する情報を掲載しています。
- IR(投資家情報)……決算説明会資料等のIR資料の随時公開のほか、動画会社案内なども掲載しています。
- CSR(環境・社会)……地球環境保全、社会貢献、コーポレート・ガバナンス等に関する取り組みを掲載しています。
- 採用情報……新卒採用、キャリア採用のほか、ナガセグループの採用情報も掲載しています。

## TOPICS 1 旧・岡山第一工場の移転プロジェクト 新工場2棟完成

株式会社林原では旧・岡山第一工場の移転プロジェクトが最終段階を迎え、「岡山機能糖質工場(S棟)」(今保地区)においては本年1月にテスト稼働を開始し、新「岡山第一工場」(藤崎地区)においては3月に竣工式を執り行いました。

岡山機能糖質工場(S棟)は、トレハロース専用工場である岡山機能糖質工場(T棟)に隣接しており、林原の機能性糖質の量産拠点として、さらなる競争力の強化を図っていく予定です。新「岡山第一工場」は、新製品の迅速な製造立ち上げを可能とするパイロットプラントを併設しており、独自技術に基づく差別化された、多品種の糖質製品製造に対応できるマルチプラントと位置付けています。

これら新工場は、自社によるエンジニアリングと、新鋭の省エネルギー設備の導入等により、エネルギー効率の高い、環境にもやさしい工場となっています。



新・岡山第一工場



岡山機能糖質工場(S棟)

## TOPICS 2 トレハロース 家庭向け製品 『トレハ(500g)』新発売

株式会社林原は、トレハロースの新たな製品として、家庭での使用を目的とした、使いやすい少量タイプの『トレハ(500g)』を本年4月から発売しています。また、これに合わせてトレハレシピサイト『トレハキッチン』も新たに設け、トレハを使った簡単な家庭向けレシピを掲載しています。今までほとんど使用されてこなかった一般家庭でも、トレハの魅力や効果をもっと身近に実感していただけるものと期待しています。なお、本品は、WEBによる通信販売が中心ですが、一部当社関連施設での対面販売もしています。

### トレハ(500g)の概要

- 商品サイズ 180mm×270mm×19mm
- 小売希望価格 税別450円(税込単価 486円)
- 賞味期限 3年
- ハラル認証 取得

■ 販売方法・通信販売：  
林原e-shop(QRコード参照→)



<http://www.hayashibara-eshop.jp>



トレハ(500g)

トレハ 新キャラクター  
(左から、トレハちゃん・とれっち・たもっち)

この商品に関するお問い合わせ

フリーダイヤル  
平日午前9時～午後5時 → ☎ 0120-05-8848

## TOPICS 3 前向きで積極的な毎日を応援する 「ナガセ BMロイヤル ドリンク」新発売

株式会社ナガセ ビューティケアは、本年4月、健康飲料「ナガセ BMロイヤル ドリンク」を発売しました。こちらは昨年12月に発売し、大好評いただいております顆粒タイプ「ナガセ BMロイヤル」のドリンクタイプとなっており、「ローヤルゼリー」をはじめ、新素材「発酵オタネニンジンM1-CD」、和漢成分である「ナツメ」、「ショウガ」、「クチナシ」等のエキスを配合しています。前向きで積極的な毎日をあらゆる角度からサポートする商品です。

ナガセの  
研究を  
結集させた  
こだわりの  
成分

ローヤル  
ゼリー発酵オタネニンジン  
M1-CD

ナツメ



ショウガ



クチナシ



テアニン

この商品に関する  
お問い合わせ

フリーダイヤル → ☎ 0120-65-3616  
ナガセ ビューティケア → <http://nbc.jp>



ナガセ BMロイヤル ドリンク



ナガセ BMロイヤル

## TOPICS 4 シュープリーム社とともに 健康・美容関連商品通販会社「ラウディ」設立

当社とシュープリーム株式会社は健康・美容関連商品の事業拡大のため、合併会社「ラウディ株式会社」を本年1月に設立し、シュープリームの持つ通信販売の運営ノウハウとナガセグループが持つ原料と研究開発力を活用し、独自の健康・美容関連商品の通信販売事業を行っています。

ラウディは「無酸化発想」をコンセプトに30代半ばから40代の働く女性をメインターゲットにして、「かさね焙煎 玄米ミルクスムージー」など魅力のある商品の開発・提供を続けます。

### ラウディ株式会社 (LAUDi Co.,Ltd.)

当社とシュープリーム株式会社の合併会社。東京都港区北青山に本社を置き、美容関連製品やその原料の研究開発・製造・加工・国内販売・輸出入を行っています。

この商品に関するお問い合わせ

フリーダイヤル → ☎ 0120-630-418

かさね焙煎  
玄米ミルクスムージー

クレンズ 水素水

クリーミーモイスト  
ミルク

会社概要

商号 長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.  
 創業 1832年(天保3年)6月18日  
 設立 1917年(大正6年)12月9日  
 資本金 9,699百万円  
 従業員 973名(連結6,259名)  
 主要な事業所 大阪本社、東京本社、名古屋支店、  
 ナガセR&Dセンター(兵庫県神戸市)、  
 ナガセアプリケーションワークショップ(兵庫県  
 尼崎市)、堺営業所(大阪府堺市)

取締役・監査役 (2015年6月24日現在)

代表取締役会長 長瀬 洋  
 取締役副会長 長瀬 玲二  
 代表取締役社長 朝倉 研二  
 代表取締役 名波 瑞郎  
 取締役 花本 博志  
 取締役 森下 治  
 取締役 佐藤 幸平  
 取締役 若林 市郎  
 社外取締役 西口 泰夫  
 社外取締役 西 秀訓  
 社外監査役(常勤) 山下 秀男  
 監査役 松木 健一  
 監査役 濱口 雅彦  
 社外監査役 高野 利雄

株式の状況

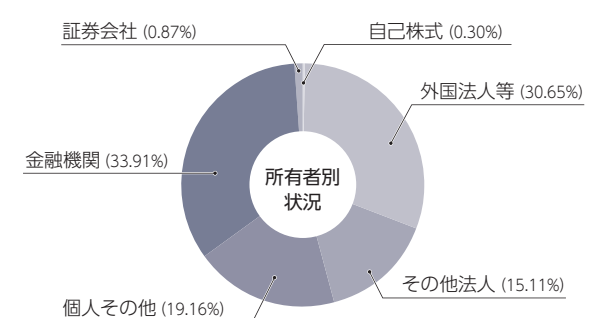
発行可能株式総数 346,980,000株  
 発行済株式の総数 127,408,285株  
 株主数 6,781名

大株主の状況

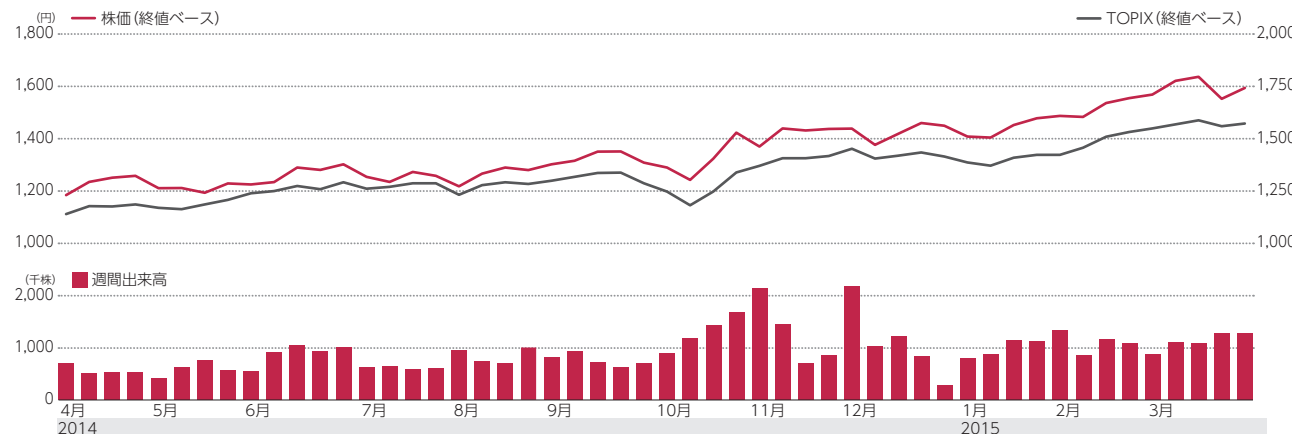
株主名	当社への 出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6,724	5.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,992	4.70
三井住友信託銀行株式会社	5,776	4.53
株式会社三井住友銀行	4,377	3.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,228	3.32
長瀬 洋	4,144	3.25
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	4,012	3.15
日本生命保険相互会社	3,589	2.82
長瀬 令子	3,573	2.80
三井住友海上火災保険株式会社	2,951	2.32

(注)長瀬洋の所有株式数には、長瀬産業役員持株会名義の株式数が含まれております。

所有者別株式分布状況



株価 / 出来高の推移 (2014年4月1日~2015年3月31日)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月開催  
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当 毎年3月31日  
 中間配当 毎年9月30日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
 株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) ☎ 0120-782-031 (平日午前9時~午後5時) (ホームページ) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
 公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載URL <http://www.nagase.co.jp/>  
 単元株式数 100株  
 株主に対する特典 毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1単元株以上保有の株主を対象に、自社もしくはグループ会社の商品を贈呈。  
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

株式に関するお問い合わせ

- 届出住所等のご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 単元未満株式の買取・買増請求



口座を開設されている証券会社へお問い合わせください。

- 特別口座に関するご照会
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- その他株式事務に関する一般的なご照会



三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 までお問い合わせください。  
 ☎ 0120-782-031 (平日午前9時~午後5時)

## 1982 創業150周年記念式典

昭和57年6月18日、当社は創業150周年を迎えた。江戸末期の京都・西陣に店舗を構えて以来、時代の洗礼を受けて何度も難局に遭遇しながら、それらを乗り越え成長してきた。同年7月には、取引先・金融機関をはじめ多数の参加者を得て、東京・大阪で150周年の祝賀パーティーを開催した。当社は同年1月に長瀬彰造社長、英男副社長による新体制を発足しており、パーティーはその就任披露を兼ねる形となった。彰造社長は、社報「創業150周年記念特集号」の巻頭において「ユーザーニーズの多様化と技術革新に対応し、将来の発展に結びつけて行く」との所信を述べた。

## 1986 コダック・ナガセの設立と分離

米イーストマン・コダック社と当社の折半出資によりコダック・ナガセ株式会社を設立し、当社コダック製品事業部が行っていた同社製品の輸入・販売活動をすべて継承する形で、昭和61年8月1日から営業を開始した。当時、売上高約700億円、売上高全体の14%を占めていた写真材料ビジネスを分離し、同時に全社員の約1/3にあたる530名の社員を転籍させることは、経営陣にとって大きな決断であった。その後、当社はコダック社の強い要請を受け、平成元年1月にコダック・ナガセ株の当社所有分を同社に売却した。これによりコダック・ナガセは、コダック全額出資の日本コダック株式会社（現コダック合同会社）となった。

## 1989 長瀬科学技術振興財団の設立、2本社制移行

平成元年4月、長瀬彰造会長、当社および関係会社の拠出資金により、財団法人長瀬科学技術振興財団を設立した。化学業界の将来的な発展に向けて、科学技術の基礎的分野をレベルアップするべく、生化学と有機化学における研究開発、国際交流を助成することが目的である。また、首都圏での情報収集を強化し、営業基盤の拡大を図るため、同年7月1日付で東京支社を東京本社に昇格させ、東京・大阪2本社制を敷いた。

## 1990 研究開発センターの発足

5年の歳月と総工費約30億円をかけた研究開発センター（ナガセR&Dセンター）が、平成2年4月26日、神戸ハイテクパークに完成した。同年6月には全国の大学、取引先など多数の来賓を迎え、竣工記念パーティーを開催した。その席上で長瀬英男社長は、皆様とともに研究開発センターを育成・活用し、将来のナガセグループ全体の繁栄に寄与させていきたいと挨拶し、R&Dセンターに寄せる思いを伝えた。

## 1995 電子・情報材料部の発足

当社はエレクトロニクス分野を強化すべく、昭和50年代半ばに産業電子資材部を発足し、さらに電子部の新設へと取り組みを強化してきた。万合成樹脂部門においても電子・情報関連ビジネスが増加し、電子部との間で活動の重複が見られるようになった。電子・情報分野の競争激化を勝ち抜き、より大きな事業の柱に育てるべく、平成7年4月に電子部と合成樹脂第2部の大部分を統合し、電子・情報材料部を発足させた。



研究開発センター



東京本社



創業150周年記念パーティー

「長瀬産業株式会社歩み」のバックナンバーについては過去の株主通信（下記URLご参照）をご覧ください。

URL↓  
<http://www.nagase.co.jp/ir/library/nagase-report/>

次回へ続く・・・

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp/>

UD  
FONT

VEGETABLE  
OIL INK

ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC  
www.fsc.org  
FSC® C022915